

再生可能エネルギー施策に

ついて



質問者
齋藤 永 議員

令和元年12月定例会で「松田町再生可能エネルギーの利用等の促進に関する条例」が提案されてから1年以上経過しました。町長のお考えを伺います。

か。公約である寄工コタウン構想との関連は。

(2) 健康福祉センターに薪ボイラーを設置し、松田町から再生可能エネルギーの必要性などを発信していくとのことですが、その方法とスケジュールは。また、薪供給体制はいつ示されるのか。

(3) ESCO事業で旧町民文化センターの施設改修を行ったが、改修して改善された点は。当時町長からサービス料は従来の委託料との相殺で140万円の負担増、電気料は年270万円下がると説明があったがどうか。



薪ボイラー(健康福祉センター)

A

利用方針・発信方法・薪供給体制・スケジュール等検討中

回答(町長)



(1) 令和2年10月に松田町再生可能エネルギー協議会を設立した。そこで議論して方針を検討しているが進んでいない。寄

工コタウン構想は未だに企業誘致も出来ていない。(3) 町内の森林環境の保全を推進していく予定だが、供給体制の確立や事業主体の育成が出来ていない。(3) 延命を図る事を含めた改修工事を行い雨漏りは解消できた。電気代はコロナ禍により会場使用減や事業縮小などにより現時点では下がっている。指定管理委託はすぐには出来ない。

高齢者に寄り添う施策に

ついて



質問者
南雲 まさ子 議員

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、中長期的な視野に立って、高齢期の不安を払拭する事業の構築をする必要があります。

(1) 現在、介護支援ボランティアポイント制度の導入は、地域サロンとして「お休み処新松田」のみとなっています。今後、この事業を拡充するお考

(1) 介護ボランティアポイント制度は、ボランティア活動を後押しし、高齢者の居場所作りや、社会参加の機会を増やし、介護予防につながる。国では令和2年度に、地域支援事業の要綱改正

今後、移動手段も含め暮らしやすい町づくりを進めていく。

A

高齢者が暮らしやすい町づくりを推進

回答(町長)



えについて伺います。(2) 第7期高齢者保健福祉計画介護保険事業計画のアンケートで、買い物をする店が近くにある事、交通の便が良い事が上位をしめました。高齢者の移動手段について本町のお考えを伺います。

によりボランティア活動の拡充をし、町としても令和3年度より対象を広げていく。

(2) 住み慣れた地域で暮らし続けるためには、買い物ができる環境や、生活の利便性が高いことは重要である。路線バスの高齢者福祉パス、移動スパーの運行支援等のほか、令和2年度より高齢者対象のタクシー初乗り運賃補助など様々な要望の対応を行っている。



お休み処 新松田